



国鉄新潟

NO. 655
発行
09・3月15日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

09春闘勝利し 労働条件の改善を進めよう

第百十五回拡大地方委員会が二月二十一日、地方本部事務所です時より開催されました。

来賓には、東日本本部の武笠執行委員、交運共済新潟事業所の高橋所長が出席されました。

委員会には、全体で三〇名の出席で、質疑討論では、委員や支部代表、職協代表それぞれ全員の発言がありました。

09春闘の闘い・職場の安全問題や労働条件改善の訴え、JR不



採用問題、並行在来線の闘いなど、地域の闘いも含め発言がありました。

加藤副委員長 開会あいさつ

はじめに加藤副委員長開会あいさつでは、『非常に厳しい春闘情勢だ。働く労働者にとつて厳しい攻撃がある。経営者は企業が優先、その次に労働者と言っている。景気拡大時期の儲けはどこへいったのか。六〇兆円以上になる。賃上げは当然だ。一丸となって団結し闘っていかねばならない。JR不採用事件の闘いは年度内解決へ向けて闘っていく。政治解決を求めて闘っていく』とあいさつがありました。



第115回 拡大地方委員会開く

儀 藤 委 員 長 に



議長は、新潟支部の儀藤委員が選出されました。就任あいさつでは、『安全問題についてJR会社は非常事態宣言を出している。投排雪列車の運用など問題が発生している。安全問題について国労として改善させていく。組織拡大は一番大切な取り組み。さらに強化を。春

闘や地域での取り組みを発言して欲しい。討論し中央へ反映させていくような委員会にしたい』とあいさつしました。

続いて守橋委員長のあいさつ、来賓には東日本本部の武笠執行委員、交運共済新潟事務所・高橋所長からそれぞれあいさつがありました。



守橋委員長あいさつ

09春闘について



来月3月末で推計で40万人が職を失うと言われながら、競い合う大企業の横暴に政治的規制すらかけられず、迷走を続ける麻生内閣に多くの国民が失望している。

09春闘は、自動車・電気産業を皮切りに賃上げ交渉が始まった。企業側はベアどころか定期昇給も困難との姿勢である。しかし大企業がため込んだ巨額の内部留保は、資本金10億円以上の製造業だけでも累計で120兆円、わずか1%の取り崩しで雇用は守れる。雇用も賃上げもが労働者の切実な要求である。今こそ大企業の社会的責任が迫られている。国労は、JR各社に賃上げや諸要求を3月17日回答指定日として2月9日、一斉に申し入れた。職場と地域で積極的に闘うことを訴えるものである。

不採用問題について

昨年7月、鉄建公団訴訟東京高裁判長が『裁判外での話し合い解決』を提案、冬柴大臣の発言もあった。

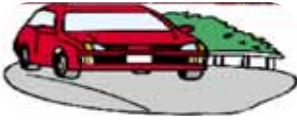
中央委員会では『3月までを決断を求める闘いの集中点にする』とし『4者4団体』の枠組みを基本に被解雇者の思い、決意、判断をこの組織の中心に置き『政治・裁判の動きがあれば早期解決を望んでいる』と鉄道・運輸機構の態度の変化が生まれている。したがって残るは政治決断のみ、との認識にたっている。

3月には連日、中央行動が指示され、4・1中央集会所も計画されている。当面の諸行動について各支部の協力を得ながら一つひとつ成功させたい。





来賓あいさつでは、交運共済の高橋所長からあいさつがあり、『担当者会議を支部ごとで開催していたが、今回は地本一括での会議を要請した。各地方は一括で担当者会議を開催しているが新潟は特例として各支部へ行つて開催していた。組合員が高齢化している。過去五年くらいは重病・障害など発生している。在職中に二人発生、障害者年金が支給されている。どんな小さなことでも気づいたことがあつたら相談して欲しい』とあいさつがありました。



交運共済 高橋所長あいさつ

東日本本部

武笠執行委員 あいさつ



JR不採用事件について
年度内解決へ闘いを進めていく。政治解決を迫る闘い、中央行動・宣伝・要請行動など取り組まれる。自民党を除く政党からあいさつを受ける状況になっている。中央行動への積極的な取り組みと地元自治体への要請に取り組んでいく。

職場闘争について
和解以降も差別は多くある。職場実態調査をして、それに基づいて交渉をしていく。その後、あっせん申請をした。膠着状態になっている。中労委の判断とし、引き続き差別については申し入れる。新採者に対しての問題や昇進についても交渉を強める。それについて、職場での具体的な事象・調査が必要だ。具体的内容・事象については、会社側は交渉すると言っている。

組織拡大について
秋田地本で2月6日拡大があった。大会以降11名の拡大となった。個人的なつながりが強い。機関としての取り組みとしていこう。職場要求は、現場で交渉を継続的にやることによって現場の対応が変わってきている。

安全問題について
1月に人身事故が41件発生した。1日に1.3人が事故にあっている。職場での事故、関連会社での事故発生、要員不足が原因になっている。反失業・反首切りの闘いと結合して取り組みを強化していく。

合理化反対の闘い
整備新幹線など、雇用や労働条件・三セク問題など、公平・公正に扱われていないのではないかと。現実の問題点として明らかにし要求の改善を進める。旅客・貨物の合理化が進んでいるが矛盾も多くなっていく。
JR信濃川発電所の不正問題は大きい。会社の姿勢、社会的責任を追及していく。

09春闘について
春闘は厳しい、定期昇給も厳しい状況だ。国労は1万円の要求、具体的取り組み・指示が出されている。東労組や連合ユニオンは夏季手当でも同時に要求を申し入れている。東日本本部としても同時交渉をしていく。格差・貧困について地域との共闘を進めていくことが重要だ。



貨物のJRカード 廃止反対!

嘱託社員の 労働条件改善を!

編集後記

いよいよ春闘本番です。一万円の賃上げや労働条件改善など、さまざまな要求をかけた闘いを展開していきましょう。
まだ、インフルエンザが流行っているようです。身体に気をつけてがんばりましょう。
拡大地方委員会の質疑・討論については次号に記載します。よろしくお願ひします。

